

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)有料老人ホームメディケア癒やし熊本	階数	地上6F		
建設地	熊本県熊本市西区稗田町6-1、外19	構造	RC造		
用途地域	第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	287 人		
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2020年6月16日		
敷地面積	3,839 m ²	作成者	蔵原 佳代子		
建築面積	939 m ²	確認日	2020年6月16日		
延床面積	4,713 m ²	確認者	山澤 純祐		

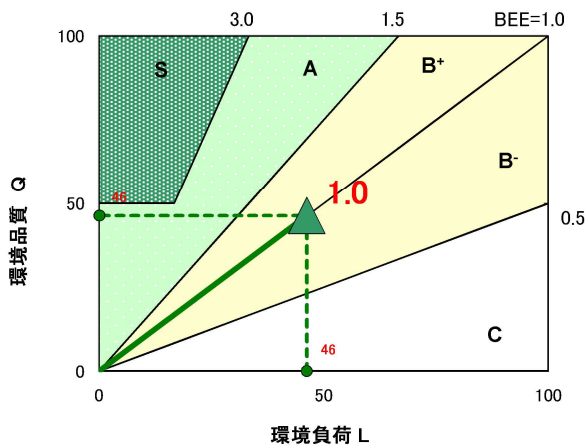
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

91%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

76

評価点

【重点事項1】温室効果ガス排出量削減の推進

74.7

【重点事項2】安全安心で暮らしやすい社会の実現

72.5

【重点事項3】県の地域資源の有効活用と保全

82.5

【重点事項4】循環型社会の実現

75.7

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

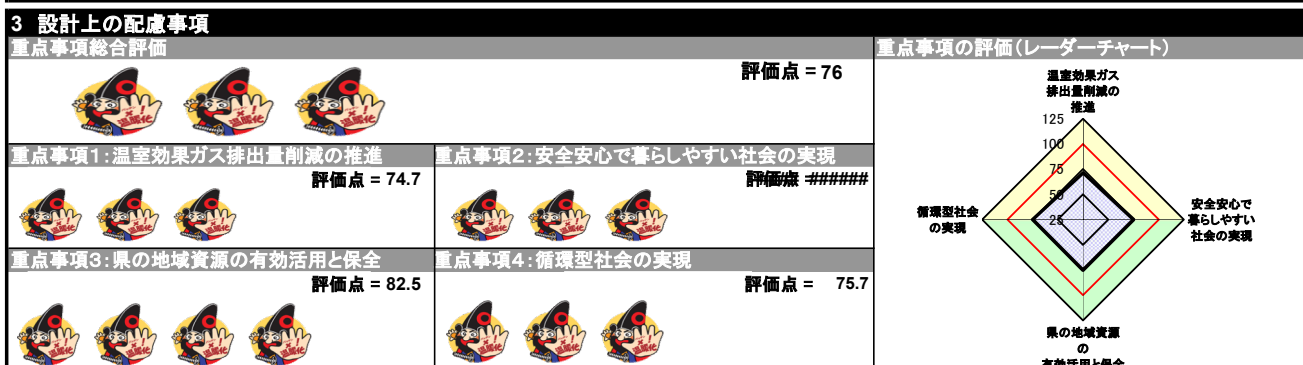
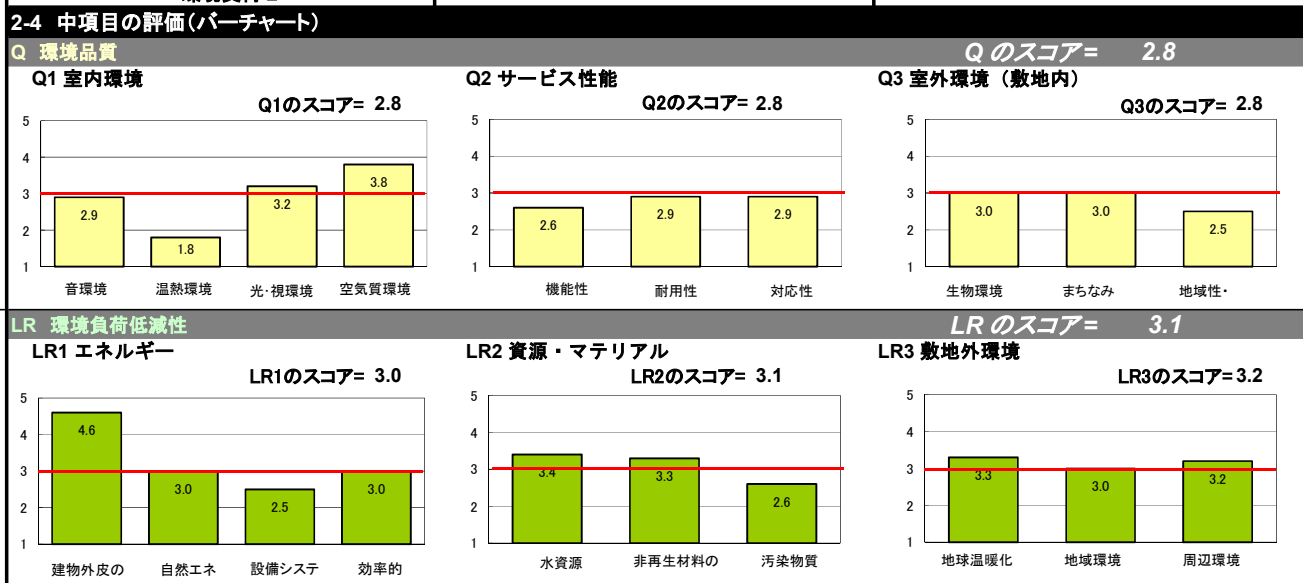
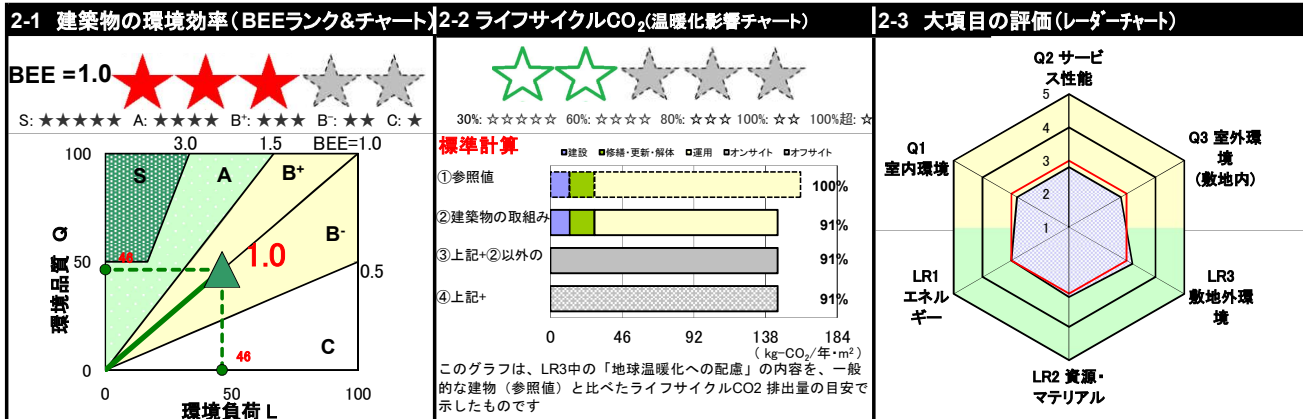
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)有料老人ホームメディケア癒やし熊本	階数	地上6F	
建設地	熊本県熊本市西区神田町6-1、外19	構造	RC造	
用途地域	第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	287 人	
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2020年6月16日	
敷地面積	3,839 m ²	作成者	蔵原 佳代子	
建築面積	939 m ²	確認日	2020年6月16日	
延床面積	4,713 m ²	確認者	山澤 絢茄	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)有料老人ホームメディケア癒やし熊本新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.8	
Q1 室内環境					0.40		-	2.8	
1 音環境				2.9	0.15	2.9	1.00	2.9	
1.1	室内騒音レベル	共用部(玄関ホール):50dB(A) 住居部(居室):40dB(A)		3.0	0.40	4.0	0.40		
1.2	遮音			3.8	0.40	2.8	0.40		
1	開口部遮音性能	遮音性能:T-2		5.0	0.40	5.0	0.30		
2	界壁遮音性能			3.0	0.60	3.0	0.30		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	1.0	0.20		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	1.0	0.20		
1.3	吸音			1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				1.8	0.35	1.7	1.00	1.8	
2.1	室温制御			2.7	0.50	2.5	0.50		
1	室温			3.0	0.38	3.0	0.57		
2	外皮性能			2.0	0.25	2.0	0.43		
3	ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-		
2.2	湿度制御			1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3	空調方式			1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.6	1.00	3.2	
3.1	屋光利用			4.2	0.30	4.2	0.30		
1	屋光率	共用部(風除室):8.5% 住居部(居室15):4.5%		5.0	0.60	5.0	0.60		
2	方位別開口			-	-	-	-		
3	屋光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2	グレア対策			2.0	0.30	4.0	0.30		
1	屋光制御	共用部(風除室):庇 住居部(住戸):カーテン・庇(バルコニー)		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3	照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4	照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				3.9	0.25	3.8	1.00	3.8	
4.1	発生源対策			4.0	0.50	4.0	0.63		
1	化学汚染物質	F☆☆☆☆		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2	換気			3.0	0.30	3.6	0.38		
1	換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2	自然換気性能	住居部(居室15) 窓面積/床面積:0.234		-	-	5.0	0.33		
3	取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3	運用管理			5.0	0.20	-	-		
1	CO ₂ の監視			-	-	-	-		
2	喫煙の制御	建物全体が禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.8	
1 機能性				2.7	0.40	2.6	1.00	2.6	
1.1	機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60		
1	広さ・収納性			-	-	3.0	1.00		
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-		
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-		
1.2	心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40		
1	広さ感・景観			-	-	3.0	0.50		
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-		
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3	維持管理			4.0	0.30	-	-		
1	維持管理に配慮した設計	③④⑤⑥⑨⑩		4.0	0.50	-	-		
2	維持管理用機能の確保	①②④⑤⑥⑦⑨		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1	耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2	部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	-		
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
2	外壁仕上材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-		
3	主要内装仕上材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	2種以上にB以上を使用		5.0	0.20	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-	-		
2.4	信頼性			2.8	0.20	-	-		
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-		
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-		
3	電気設備			3.0	0.20	-	-		
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		
5	通信・情報設備			2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.1	0.30	2.6	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり			2.8	0.30	2.2	0.50	
1 階高のゆとり			2.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		比率(1階):0.268 比率(居室15):0.25	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		構造部材・仕上り材を痛めることなく、更新・修繕できる。GL工法	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		構造部材・仕上り材を痛めることなく、更新・修繕できる。GL工法	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.84	4.6	0.20	-	-	4.6
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.89	2.5	0.50	-	-	2.5
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、節水型便器採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		パーティクルボード	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上り材が容易に分別可(軽鉄下地) 内装材と設備が容易に取り外せる(GL工法)	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			2.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率: 92%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐輪場・駐車場の確保、導入路の配慮	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの項目の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

6階建なのでなるべく南西側に寄せた配置とした。

・北側近隣になるべく日影などで影響が出ない様に配慮し、南西側隣地は高台の山、擁壁になっており圧迫観のない様に計画した。

Q1 室内環境

居室の窓を大きくし、通風・採光の確保に努め、快適な住空間を目標とした。

居室のサッシは断熱性の向上を図り、遮音等級T-2以上を採用した。

使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止した。

Q2 サービス性能

将来の更新を想定し、全室ビニル床を採用した。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

建物外皮の熱負荷抑制、設備システムの高効率化を行い、運用管理体制を整備した。

LR2 資源・マテリアル

限りある資源を有効に利用した。

節水型器具を採用した。

LR3 敷地外環境

地域インフラへの負荷抑制に配慮し交通負荷抑制の取り組み、および廃棄物処理負荷抑制への取り組みを行うよう計画した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)有料老人ホームメディケア癒やし熊本新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	76
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進						
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05	74.7	0.40	29.88
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.6	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.5	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現						
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25	72.5	0.20	14.50
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全						
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20	82.5	0.20	16.50
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現						
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30	75.7	0.20	15.14
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数